

第3章 本市の緑の現状

3.1 緊急樹木総点検の結果整理

緊急樹木点検（調査期間：令和5年（2023年）7月～11月）の結果について、市有施設ごとに樹種、本数、判定等を分類整理しました。

施設ごと主要樹種まとめ

1 道 路	植栽本数上位		(本)	E判定(本)	割合
	1	サクラ（ソメイヨシノ含む）	1,112	314	28.2%
	2	ケヤキ	1,891	202	10.7%
	3	クスノキ	982	83	8.5%
	4	イチョウ	1,506	65	4.3%
	5	アメリカフウ（モミジバフウ含む）	457	59	12.9%
E判定となった樹木の割合			10%		
2 公 園	植栽本数上位		(本)	E判定(本)	割合
	1	サクラ（ソメイヨシノ含む）	3,762	606	16.1%
	2	ケヤキ	1,047	133	12.7%
	3	ヒノキ	143	57	39.9%
	4	アラカシ（カシノキ含む）	500	54	10.8%
	5	ウメノキ	352	43	12.2%
E判定となった樹木の割合			11%		
3 市 営 住 宅	植栽本数上位		(本)	E判定(本)	割合
	1	カイヅカイブキ	497	49	9.9%
	2	キンモクセイ（モクセイ含む）	410	49	12.0%
	3	サクラ（ソメイヨシノ含む）	272	49	18.0%
	4	モミジ（イロハモミジ、ヤマモミジ、ノムラモミジ含む）	193	38	19.7%
	5	アラカシ（カシノキ含む）	119	31	26.1%
E判定となった樹木の割合			11%		
4 そ の 他 施 設	植栽本数上位		(本)	E判定(本)	割合
	1	サクラ（ソメイヨシノ含む）	969	240	24.8%
	2	アラカシ（カシノキ含む）	441	64	14.5%
	3	ケヤキ	208	30	14.4%
	4	マテバシイ	91	24	26.4%
	5	モミジ（イロハモミジ、ヤマモミジ含む）	148	22	14.9%
E判定となった樹木の割合			13%		



主な樹種写真

施設ごとの判定分類

施設	区	総合判定 (本数)					
		A	B	C	D	E	E割合
道路	計	5,519	925	1,977	1,149	1,087	10%
	中央区	2,074	358	503	365	407	11%
	東区	1,388	305	592	425	256	9%
	西区	343	46	166	64	77	11%
	南区	630	102	539	126	79	5%
	北区	1,084	114	177	169	268	15%
公園		5,751	2,743	3,027	628	1,432	11%
市営住宅		2,239	666	534	118	446	11%
その他施設		2,658	585	785	190	636	13%
計		16,167	4,919	6,323	2,085	3,601	11%
		49%	15%	19%	6%	11%	

凡例

- A 健全
- B 概ね異常なし
- C 軽度の異常がある
- D 重大な異常がある
- E 危険性が高い

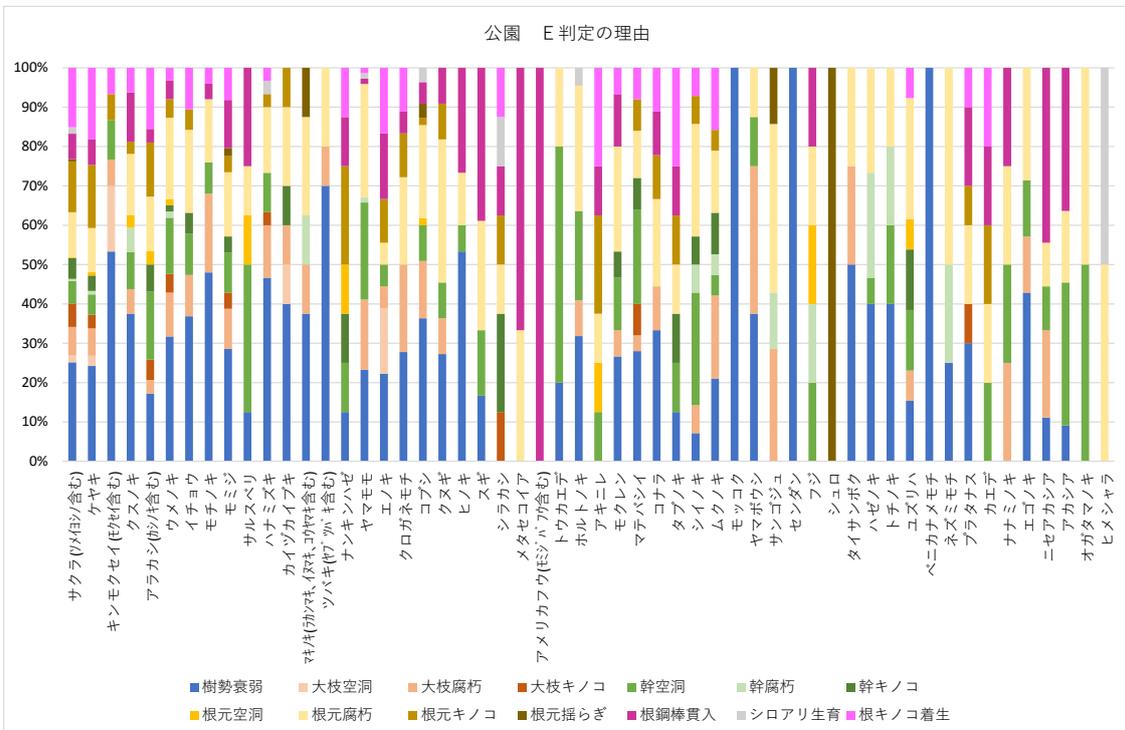
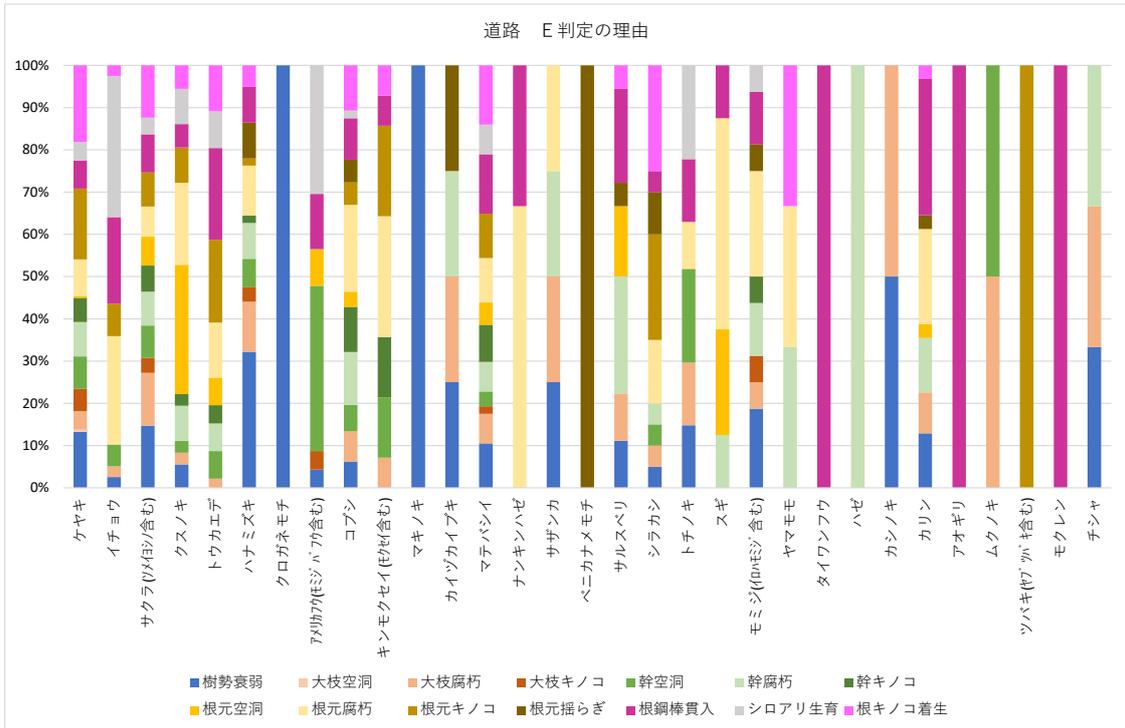
3.2 生育不良樹種の分析・整理

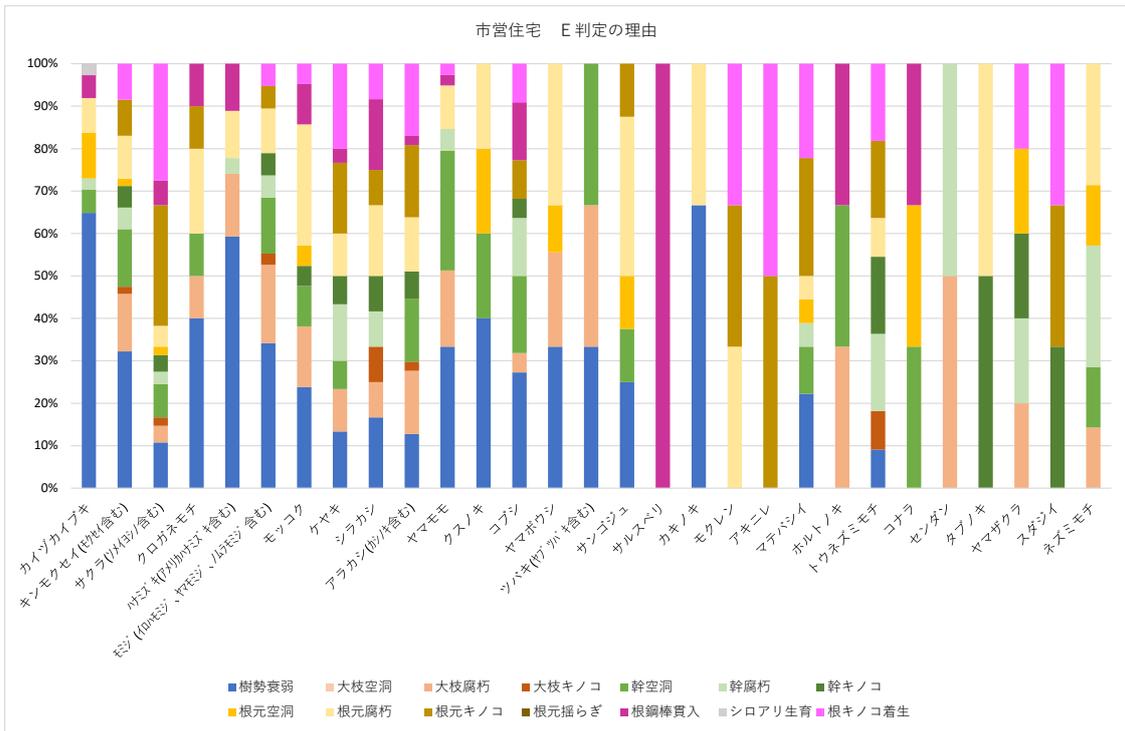
点検（植栽）本数が10本以上の樹種について、E判定となった主な理由（複数該当あり）を施設ごとに整理しました。

施設ごとのE判定となった主な理由（割合）

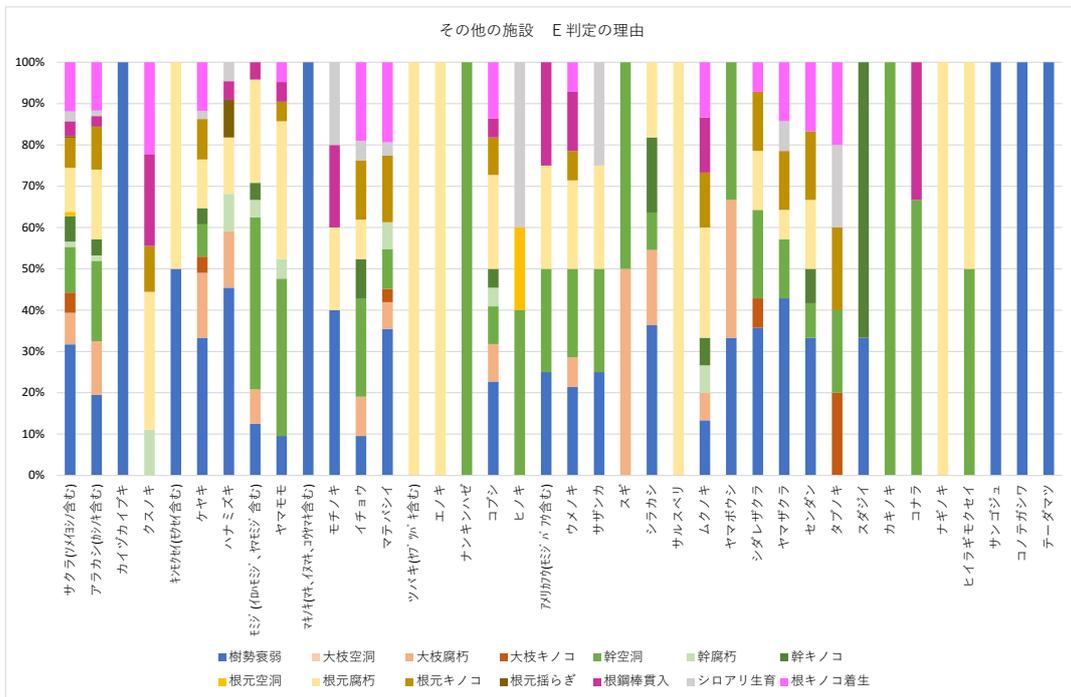
E判定となった理由		道路	公園	市営住宅	その他施設
樹勢	衰弱	13.4%	26.6%	25.9%	29.2%
大枝	空洞	0.1%	1.6%	0.0%	0.0%
	腐朽	9.7%	8.2%	10.0%	8.0%
	キノコ	2.8%	4.0%	1.3%	3.1%
幹	空洞	7.2%	8.6%	10.9%	13.6%
	腐朽	8.6%	1.1%	5.1%	1.8%
	キノコ	5.3%	4.1%	4.1%	4.9%
根元	空洞	5.3%	0.7%	2.8%	0.7%
	腐朽	10.3%	14.6%	10.9%	13.5%
	キノコ	8.6%	10.1%	12.0%	7.8%
	揺らぎ	2.6%	0.6%	0.0%	0.4%
根鋼棒貫入異常		10.1%	6.9%	4.7%	3.6%
シロアリ生育		5.1%	1.2%	0.2%	2.5%
根キノコ着生		11.1%	11.9%	12.0%	10.8%

次に、施設ごと・樹種ごとにE判定となった主な理由（複数該当あり）を整理しました。





樹種ごとのE判定となった主な理由（市営住宅）



樹種ごとのE判定となった主な理由（その他の公共施設）

土壌調査結果からは、危険判定の原因となり得るのは、土壌の固結と養分不足であると推察されました。

以上の結果から、E判定となった主な原因について、植栽基盤、維持管理、害虫の観点から評価しました。

市有施設ごとのE判定の原因や行為

施設	維持管理	植栽基盤	害虫	比較的欠陥が多い樹種
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強剪定 ・ 不適切な時期の剪定 ・ 根切断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭い植枿 ・ 土壌硬化 ・ 養分不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腐朽にくるシロアリ 	カイツカイブキ、サザンカ、ヤマモモ
公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強剪定 ・ 根切断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 踏圧 ・ 養分不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腐朽にくるシロアリ 	エノキ、フジ、カエデ、ナナミノキ
市営住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切な位置での剪定と後処理 ・ 根切断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 踏圧 ・ 養分不足 		クスノキ、モクレン、トウネズミモチ、コナラ、ヤマザクラ、スダジイ
その他の公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切な位置での剪定と後処理 ・ 枝折損 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 踏圧 ・ 養分不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腐朽にくるシロアリ 	モチノキ、アメリカフウ（モミジバフウ含む）、サザンカ、シラカシ、ヤマザクラ、センダン、タブノキ

海外事例紹介

●ドイツの街路樹マネジメント

ドイツにおける街路樹管理は技術的にも管理体制的にも非常に高い品質で実施されています。一つ一つの街路樹の状況を丁寧に調査把握し、そのデータに基づいて、それぞれの街路樹に対して計画的に適切な管理を行っています。その管理は将来を見据えて、倒木や枝折れがないように、若齢の段階から定期的に構造的剪定や下枝の処理を行い、樹木を傷つけずに安全で健全な街路樹が育てられています。植栽基盤についても、大きな街路樹を育てるために、12 m²を基本とする考え方があり、歩道下に植栽基盤を拡大し、その体積を確保する方法が標準となっています。また街路樹を管理する役所の担当者も専門知識をしっかり持ち、調査から業務の実施まで一貫して管理をおこなっており、業者に対する要求レベルも高く、量より質を求める考え方をしっかりもっていることが、その品質の高さの背景にあります。落ち葉に対して税金を徴収して処理していることや気候変動に対しての対策を進めていこうとしていることも、今の日本が検討すべきことでしょう。

出典・引用；「都市防災・美化のための街路樹管理技術・体制のあり方に関する調査・研究（公益財団法人 都市防災美化協会）」 pp26-40 より抜粋

●ハンブルク市の街路樹調査システム

ハンブルク市には現在約 25 万本の街路樹が植えられています。戦争により市内の緑の大半が失われたため、1960 年代から 70 年代にかけて、現在の街路樹の半分以上、約 15 万本が植樹されました。（中略）年月を経て、樹木の痛みが目立ち始めるようになってきました。また病害虫の大被害もあり、街路樹のさらなる適切な管理が求められるようになりました。具体的には街路樹の全体像とそれぞれの樹木の状況の把握が求められ、それら情報をより効率的に管理するため、ハンブルク市は 1998 年にデジタル樹木調査システムを独自に開発し始めました。また 1999 年より調査にタブレットが用いられるようになり、調査員が現場で効率的に入力できるようになりました。2000 年からは樹木の包括的な健康状態のチェックも実施され、そのシステムに組み込まれました。さらに現在市が独自で撮影した航空写真のデータもレイヤーに組み込まれ、市の職員は現場に行かなくても航空写真によってある程度の状況が把握できるようになっているほか、古い土地利用図などの情報も入力されており、歴史的な視点での状況把握も可能となっています。（中略）現在の街路樹調査システムはドイツやルクセンブルグ、スイスなどの 26 都市で導入されています（2018 年時点）。

出典・引用；「都市防災・美化のための街路樹管理技術・体制のあり方に関する調査・研究（公益財団法人 都市防災美化協会）」 pp26-40 より抜粋